

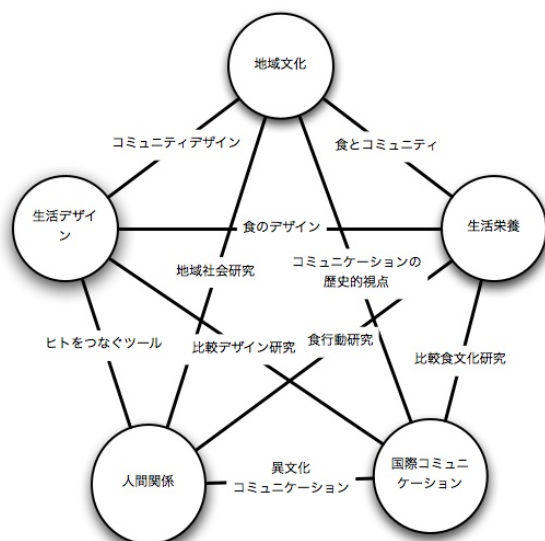
## 「地域と生活から人間を探求し、多文化共生社会の未来を拓く、人間文化学部」 人間文化学部の今後 10 年の将来構想

人間文化学部では、平成 24 年度より新たに「国際コミュニケーション学科」を創設し、従来の地域文化を核とする学部形態をさらに発展的に拡大させた新たな 5 学科組織へと移行する。これを受け、従来以上に全学科の連携・共同を目指し、国際化の観点を取り入れつつ、地域・生活連関係総体の諸側面に関する総合的研究教育を推進していく必要がある。国境を越えた人や企業、資本の移動が活発化し、人間生活はあらゆる場において「グローバル化」に直面し、多文化共生が人類の課題となっている。その際、狭義の「文化」だけではなく人間の持つあらゆる多様性（diversity）が尊重されることも求められている。多文化共生社会の推進を掲げる滋賀県の現状にも学びながら、地域と生活から人間を探求し、すべての多様性が尊重される、多文化共生社会の未来を拓く「知と実践力」をはぐくむ学部となることを目指す。

### 1. 教育

- ・ 学科横断的な科目を設定することで、学生に幅広い視野を提供し、柔軟な学部教育を目指す。
- ・ 国際コミュニケーション学科の設立に伴い、人間文化学研究科の部門構成を見直す。
- ・ 学部共通基礎科目である環琵琶湖文化論実習の、より効果的な実施方法について検討する。
- ・ 地域に根ざした附属博物館を計画し、学芸員資格との連動を構想する。研究成果の公開、研究にともなう成果品や資料の保管、展示を通じた教育、展示活動や資料の整理・保管、講演会などのあり方について検討する。
- ・ 「地域学副専攻化による学士力向上プログラムー近江楽士（Community Networker）から近江環人（Community Architect）へー」に積極的に取り組む。

### \* 具体案：人間文化論 A（対話する人間文化）



従来の学部共通科目、学科共通科目においては、形骸化したオムニバスの縦割りの授業形態になるという指摘がこれまでもなされてきた。そこで、人間文化学部内の 5 学科間（平成 24 年度より）の関係を学生に伝えるとともに、教員間の関係を活性化すべく、複数学科の教員で構成される学部共通科目「人間文化論 A（対話する人間文化）」を設定する。

「対話する人間文化」では、異なる学科に属する教員どうしを組み合わせ、5 学科すべての組み合わせ（計 10 通り）によるテーマ対談を行う。さらにこの対談内容を取り込んで、各学科のオー

ガナイザーが講義を1回ずつ行うという方式をとる。各5学科はオーガナイザーとなる教員を一人選出し、その教員がそれぞれの対談を担当する学科教員（重複可）を4通り選出する。図は学科間共通テーマの一例である。

このような対話によって、学生には幅広い視点を提示し、他学科への興味をうながすとともに、人間文化学部の全体像を把握してもらおう。一方、教員どうしも対話を通して、学科間の新たな連携を模索する。

## 2. 研究

- ・ 学部、学科横断型のプロジェクトを立ち上げ、学際的研究を進める。
- ・ 地域の課題に応え、学術研究の幅広い成果を共有する教育研究の拠点を作る。

### **\*具体案：学科間連携研究による地域研究：「コア対象研究プロジェクト」**

学科間の連携をより高め、研究を活性化するため、学科を越えた地域研究計画として「コア対象研究プロジェクト」を立ち上げる。これは、コアとして、特定の地域、もしくは場所を選び、その地域性に根ざしながら、さまざまな他地域に共通する課題と解決方法を見出していくプロジェクトである。たとえば、地域Aに存在する建物を対象とし、その建物の地域性、デザイン性、そこでふるまわれる食文化、あるいはその建物をを用いた人間交流を考え、さらには国際的な視点から文化比較を行うことで、地域Aについて、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科のそれぞれからアイデアを持ち寄り、立体的な研究プロジェクトを進めることが可能になる。

## 3. 社会貢献

- ・ 「近江楽座」「近江環人地域再生学座」に積極的に参画し、地域貢献活動を推進する。
- ・ 附属「子どもの発達と未来応援センター」を設置し、関連諸分野の基礎・応用研究を推進する。学内外個人・団体との連携を幅広く構築しつつ実践活動を組織し、子育てや健康の視点から「人が育つ」地域づくりに寄与することを目指す。

## 4. 国際化／地域化

- ・ 英語をはじめ、複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につけ、国内外を問わず広く活躍することのできる人材の育成を目指す。
- ・ 海外留学や国際ボランティア活動などの学生の活動を積極的に支援する。
- ・ 多文化共生推進という地域の課題に応える学生の活動を積極的に支援する。
- ・ 外国人留学生への支援を強化する。特に日本語教育の充実をはかる
- ・ 日本語教員養成課程を人間文化学部の副専攻課程として設置し、日本語を外国人や外国に伝える人材に対する社会のニーズに応える。
- ・ 国際社会への貢献と地域社会への貢献を結びつけ、滋賀県の人文・社会・生活科学諸分野の学際的发展に寄与し、地域活性化の推進力となることを目指す。